



JAなんぽろ青年部道外視察研修

6月12日(月)・13日(火)、当JAなんぽろ青年部が道外視察研修を行いました。

今回の研修では、農林水産省職員との意見交換、渡辺孝一衆議院議員への表敬訪問、ならびに国会議事堂の見学を行いました。農林水産省職員との意見交換の際には、平成30年以降の水田活用の直接支払交付金等について説明を受け、盟友が疑問に思っていることを質問し、回答をいただきました。

渡辺孝一議員への表敬訪問の際には、盟友達のこれからの営農について意見を述べ、南幌町の農業について熱く話し合いました。

くみあいだより

JAなんぽろ



JA なんぽろホームページアドレス <http://www.ja-nanporo.or.jp>



南 幌 町 農 業 協 同 組 合

女性部短信

◆女性部部員視察研修

6月20日（火）、JANAなんぼろ女性部は小樽方面への部員視察研修を開催し、部員70名が参加しました。はじめに「東洋水産㈱北海道第二工場」にて、マルちゃんでおなじみ『焼きそば弁当』の製造ラインを見学しました。展示コーナーには、歴代の商品から海外の商品などが並び、中には見たことのない商品もありました。昼食は小樽ならではの季節の食材を使ったお料理を食へ放題のbuffetスタイルで頂きました。店内からは小樽港マリナや石狩湾の景色を眺めることができ、食事と一緒に景色も楽しむことができました。

午後からは、和菓子作りを体験しました。小樽にある、「和菓子処 つくし牧田」の牧田園子さんからやさしく丁寧に教えて頂き、みなさん初めての体験でしたがとても楽しく作ることが出来たと話していました。最後に小樽市内を自由に散策し、小樽の街並みを眺めながら買い物を楽しみました。

今回の視察研修は天候にも恵まれ、日頃の疲れを忘れてゆったりと楽しく過ごすことができました。



▲ マルちゃんの工場で集合写真。



▲おたる運がっぱの和菓子。
可愛くできました！

蔬菜類出荷目慣らし始まる

6月中旬より、ピーマン、ブロッコリーの出荷目慣らし会が行われました。

6月13日（火）、野菜等集出荷センターで行われた、ピーマン出荷目慣らし会では、部会員がピーマンを手に持ち、(株)札幌ホクレン青果等の職員の話聞きながら出荷規格を確認し、出荷要領の変更点の説明を受けていました。

また、6月16日（金）に野菜等集出荷センターで行われた、ブロッコリーの目慣らし会では、平成29年度の市場情勢および出荷について説明された後、部会員が自らブロッコリーを手に持ち出荷規格や品質等を確認していました。



▲ ピーマンを手に持ちながら説明を受ける部会員



▲ ブロッコリーを手に取り確認する部会員

お互いの生育を確認！水稻直播圃場巡回

6月16日（金）、町内の水稻直播栽培圃場で出芽調査を行いました。本年の水稻直播は、湛水が4件、乾田が3件、合計7件約26haで栽培されています。調査は普及センター南西部支所と協力し、生産者6戸とともに各自の圃場を巡回する流れで行ない、町内7地点の生育状況を確認しました。

調査結果は、目標出芽本数150本／㎡に対し、平均180本／㎡と、全地点で順調な生育を示しており、参加した生産者は自身の圃場説明や他の生産者へ質問を行なうなど、「良い情報共有の機会になった。」と話していました。今後引き続き、生育期節ごとに調査を行なう予定です。



▲ 作業のやり方や生育状況を皆で確認！



▲ 生育は順調！



火災避難訓練実施

6月5日（月）、当JA事務所で火災避難訓練が行われました。今回は、JA2階喫煙所からの出火が原因というケースで避難訓練が行われました。当日は、職員が自ら避難を呼びかけ、1人1人自分の担当する役割を果たしながらスムーズに行われました。

南幌消防署職員からは、「日頃から、身の回りのコンセントやたばこの吸い殻等には注意してください。」と話されました。

その後、新入協職員3名を含む、職員5名で実際に火を使いながらの消火器訓練が行われました。



▲ 南幌消防署職員から話を受けている風景



▲ 消火訓練を行う田中職員（資材課）

高校生に農業の魅力を教える

6月8日（木）、当青年部は、岩見沢農業高校へ行き、農村ホームステイ事業の講義を行いました。農村ホームステイ事業とは、各盟友の家に学校の先生を招き、農家の1日を体験していただくというものであり、講師は、森口育民氏（栄進）と米田昌樹氏（有NOAH・栄進）が務め、岩見沢農業高校の生徒約25名に講義を行いました。

講義は、農村ホームステイの1日の流れや感じたこと、先生からの感想を具体的に体験談を交えながら行われました。

最後には、高校生に伝えたいこととして、「農家の仕事を1回は見に来てください。」「仲間をたくさん作り、自分のスキルアップにつなげてください。」と高校生に熱い言葉を送りました。



▲ 講義を行う森口氏（栄進）



▲ 講義を行う米田氏（有NOAH・栄進）

農作業を通じて交流

6月17日（土）、24日（土）、食育班の事業として、ホクレンくるるの杜で開催されている「畑の学校」の農作業体験に参加しました。

17日（土）は、「2年1組」の農作業に参加し、とうきびの間引きとかぼちゃの摘心・整枝等の作業を行いました。24日（土）は、「きび組」の間引きが行われました。

両日ともに、多くの盟友が参加し、農作業体験者と交流を深めながら作業を行いました。また、作業の開始前には、盟友より南幌町と青年部の紹介や当日の作業の紹介をパソコン班が作成した資料をもとに説明しました。

今後も、「むぎ組」、「もち組」、「まめ組」の3回の作業に参加する予定になっており、食育・青年部のPR活動を行っていきます。



▲ 南幌町の紹介をしている盟友達



▲ 畑の学校参加者と農作業を行う盟友

廃農ポリ・ビニール回収に協力

6月22日（木）・23日（金）の2日間、わたり、野菜等集出荷センターで廃農ポリ・ビニールの回収が行われ、盟友7が参加協力しました。

1日目は、悪天候で盟友達は雨に打たれながらの作業でしたが、2日目は天候に恵まれ、逆に変な暑さの中での作業でした。

作業内容は、荷降ろしや積み込み、車両の誘導など産業廃棄物の適正処理等を行い、盟友達は懸命に作業を行っていました。



▲ 1日目の雨の中作業を行う盟友達



▲ 2日目の暑い中作業を行う盟友達

南幌産小麦を使用した素麺『天恵の糸』が エコープなんぼろ店で販売開始

大手百貨店の高島屋で「夏のお中元ギフト」商品として全国販売が開始されてから3年目を迎える南幌産小麦を100%使用した素麺「天恵の糸」が、本年からエコープなんぼろ店でお中元ギフトとして店頭で販売されます。ぜひ、地元ギフトのひとつとして、夏のお中元などにご利用ください。

香川県小豆島で作られており、特徴は、つるつるとした食感の『つるきち』、弾力を持つ『はるきり』、冴えた白さが特徴の『きたほなみ』これら3種類の南幌産小麦を絶妙にブレンドしたコシのある喉越しの良い素麺です。

お買い求めは、エコープなんぼろ店のほか、高島屋オンラインストア（パソコン・スマートフォン）からもご購入可能です。

■エコープなんぼろ店取扱商品（価格は税込）

小豆島手延素麺「天恵の糸」寒作り	50g×16束	3,240円
	50g×13束	2,700円

■高島屋オンライン取扱商品（価格は税込）

小豆島手延素麺「天恵の糸・匠」極寒作り	(50g×2)×10	5,400円（高島屋限定）
小豆島手延素麺「天恵の糸」寒作り	50g×28束	5,400円
	50g×22束	4,320円
	50g×16束	3,240円
	50g×13束	2,700円



J A北海道大会実践フォーラム

～パネルディスカッション～

テーマ「道民と食と農でつながる」

サポーター550万人づくりに向けて

「道民と食と農でつながるサポーター550万人づくりに向けて」と題したパネルディスカッションの内容を3回シリーズでご紹介します。



宮入 隆 氏

北海道大学 教授

宮入です。550万人サポーターづくりは、チャレンジングなテーマですが、既に色々な取組みがあります。それはどう見せるか、どこから手を付けるか、今日はそのヒントを見出していければと思います。

早速ですが、今日ご参加頂くパネリストの皆さんに自己紹介と今日の意気込みをお話し頂きます。

河野 真也 氏

タレント



オクラホマというコンビで活動している河野真也と申します。僕はあぐり王国北海道という番組の取材経験から得た、一般の方よりは農家さんに近い目線、また1歳の息子がいる父親の目線でもお話ししたいと思っています。大阪出身の僕は、北海道が素晴らしい

しいということに地元の人が気付いていないのでは」という意味で「道産子は道産子であることにあぐらをかいている」と言い続けています。そんな道外から見た北海道という点にも意見したいと思っています。今日は頑張りますのでよろしく願います。

高橋 さやか 氏

食育フリーマガジン

mogmag 編集長

「mogmag」というフリーマガジンを発行している高橋と申します。この冊子は



レシピを中心に生産者の情報や、旬の食材、子どもと食に関するお悩み等を載せた、ママ向けの食育情報誌です。

本日は消費者の一人として、また3歳の娘のママとしての目線で色々お話しできればと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

森川 純 氏

北海道新聞社 論説委員



北海道新聞の森川と言います。まず私の中で、もやもやしているTPPの話をも最初にしたと思います。す。TPPの問題に全国の農業団体が反対運動を繰り広げた後、強引な農協改革を迫られました。政府の姿勢は問題ですが、その後、中央会が反対の看板を下ろしたことに私は、はしごを外された

思いです。

とは言え政府への意見は別としても、消費者を意識して農産物をつくり、売ることは大事であり、それが北海道の産業の発展に繋がり、地域を支えると思っています。その意味で建設的な議論に加わりたく思います。

高橋 優 氏

J Aきたみらい 常務理事

(事例発表者)

J Aきたみらいの高橋でございます。本日のパネリストの皆様は、さまざまな立場



の方々ですので、J Aグループ内から見えない、外側からの発想に基づく貴重なご意見があると思います。私どもは、ご意見を吸収してそれを行動に移したいという思いで参加させて頂きました。よろしく願います。

高橋 和則 氏

J A北海道中央会

総合企画部長



中央会総合企画部の高橋と申します。私どもの部署は大会決議の実践に向けた組織の事務局、サポーターづくりに繋がるテレビ番組「あぐり王国」の制作、さらにスマホアプリ「J A 2MP」の開発も担当しております。本日はよろしく願います。

宮入教授 それでは、きたみらいの事例を参考にしながら、各々思ったことをお聞かせ頂きたく思います。

河野氏 事例の内容やホームページを見て、こんなに色んなことをやっているのかと驚きました。同時に、今まで知らなかったなと思ったんですね。ちなみに高橋常務、ホームページ



とフェイスブック以外には何かやられているのですか。

高橋常務 あとは先程ご紹介させて頂いたコミュニケーション誌を、年に3回発行しております。

河野氏 なるほど。サポーターになってもらうため550万人の道民に向けてやるのはもちろんですが、その上で僕がいいなと思うのは、道外のファンをつくる取組みです。僕は先程「道産子は道産子であること」にあぐらをかいている」と言いましたが、僕は北海道に来て野菜の美味しさに驚きました。普通に売られている野菜が美味しいのですが、北海道の人にとっては美味しくて安心安全なものが当たり前です。当たり前とされているものの良さに気付かせることは中々難しいと思います。だから道外のファンを増やして、そこが盛り上がることによ

宮入教授 たくさん取り組んでおられるけれども知られていないという点は、これは今日のディスカッションの中でも一番求められている課題だと思います。それでは続いて、高橋さんお願いします。

高橋さやか氏 今は何でもスーパーで手に入る時代ですので、生の体験で食への意識が変わると思います。また、私も先程の事例発表で初めて、色々な取組みを知ったので、情報が届かない現状を感じました。

例えば、50代の会社員と30代のママとは見るものや求める情報も違うので、伝える相手や起こして欲しい行動に応じて情報発信を工夫する必要があります。

宮入教授 実際、フリーマガジンで情報発信をする高橋さんの立場で、具体的な情報の流し方に関するアイデアがあれば教えて頂ければと思うのですが。

高橋さやか氏 例えば会社員なら新聞がメインだと思いますが、子育て中のママならやっぱり児童会館での口コミや、SNSですね。相手によって伝え方を工夫していくのは大事だと思います。

宮入教授 地域には様々な年齢層、考え方の方がいらっしゃると思いますが、高橋常務が実際現場で取り組まれている伝え方の工夫はございますか。



すが、直接人が出向き伝える活動もしています。例えば鹿児島は、豆を多く食べる地域であり、生産組織の皆さんによる現地での販売も行っております。これも行って初めて分かったことなので、人が出向く活動は増やしたいと感じます。



高橋常務 誰に伝えるかという点がぼやけていることは多いです。これからは伝える相手が誰か、そして伝え方の工夫も必要と感じました。情報はインターネットや広報誌でも伝えていま

理事会報告

6月12日

6月理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【議案】

- 1、平成29年度 米麦生産出荷懇談会の開催日程について
- 2、定款第54条3項の規定による理事と組合との取引の承認について
- 3、固定資産の取得について

【報告事項】

- 1、第4回営農振興組合長会議の開催について
- 2、農産物の生育状況について
- 3、平成29年度肥（平成30年度用）肥料推進と価格動向について
- 4、オール空知地区中古農機・自動車展示即売会の開催について
- 5、平成28年度収入減少影響緩和交付金の決定及び積立金の返納について
- 6、農業用廃農ポリ・廃農ビニールの回収について
- 7、5月末農産物の保管状況について
- 8、平成29年度 JA総合推進について
- 9、JAバンク北海道窓口セールズコンクール出場について
- 10、5月期JAローンの貸付について
- 11、平成28年度 JA共済優待L A全国表彰受賞について
- 12、JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリング報告」について
- 13、内部監査の結果報告について
- 14、平成29年度5月末組合員の異動状況について
- 15、第1四半期における固定資産の取得、処分に
- 16、夏期手当の支給について
- 17、空知管内農協組合長会海外視察研修の実施について
- 18、平成28年度 全道JA広報コンクールの受賞について
- 19、要領等の改正について
- 20、5月末財務状況について

練習の成果を

6月23日（月）、当JA野球部が空知管内JA野球大会に出場しました。本年は南幌・長沼・由仁の各球場で行われ、当JAは南幌町営球場で試合を行いました。

初戦は昨年のJA野球大会で試合を行い、大敗を喫してしまったJAピンネが対戦相手でした。

当JAは試合開始直後よりチャンスを作り、木村職員（販売推進課）のタイムリーヒット等で3点を取るものの、回を重ねるごとに相手に点数を取られ、最終的には4対11という大差で敗れてしまいました。

JA野球大会は敗れてしまったものの、当JA野球部の活動は7月末までおこなわれます。



▲ タイムリーヒットを打った木村職員



▲ 力投する犬養職員（資材課）

私達のJA

平成29年5月末日現在

組合員	2,823名
（前年同期比）	▲28名
正組合員	479名
（前年同期比）	▲28名
准組合員	2,344名
（前年同期比）	0名
正組合員戸数	304戸
（前年同期比）	▲10戸

編集後記

・6月中旬には、青年部の東京への道外視察研修、下旬には女性部の小樽方面への視察研修があり、私は、両方の研修に参加させて頂きました。両団体の研修の内容は違いますが、多くのことを学ぶことが出来たのではないかと思います。また、私も勉強になる場面がいくつかあったと感じています。

くみあいだより担当の平井は青年部の道外視察研修に同行いたしました。

